

ひゅーまん ねつとわーく



2010年7月 発行 / 第42号

社会福祉法人北摂杉の子会

〒569-0071 大阪府高槻市城北町1丁目6-6 奥野ビル402 TEL 072-662-8133 FAX 072-662-8155 info@suginokokai.com



「よどのコロケ1周年記念セールの様子」

専門職としての私

～臨床発達心理士からみる就労支援～



ジョブサイトひむろ

臨床発達心理士 ^{まつ}松 ^だ田 ^{こういちろう}光一郎

近年、発達障がいや自閉症などの発達支援のニーズを有する方々が増加しています。これらのニーズに対応するためには、心の動きへの深い理解が必要です。それには、生物学的側面や認知、言語機能などの個人の内面のみならず、生活や人間関係等の多様な環境的側面も含んだ包括的な理解の観点も必要となります。また、障がいと定型発達との境界に位置する方々もおられ、障がい・非障がいの2分法的な見方では捉えられなくなってきています。つまり、障がい・非障がいで分けるのではなく、繋がり(連続体)として捉える、新たなパラダイムに立った支援が求められているといえます。また、職業リハビリテーションの領域においても、障がいのあるなしに関わらず仕事をするにより、対価を受け取るといった社会的関係を成立するために、現在の能力を常に肯定的に受け止め、「できる」ことを認め、伸ばしていく支援が求められてきています。そのための方法として、援助付き雇用(Supported Employment)という支援が主流となり、障がいのある方の就労は大きな前進を見せています。これは、雇用前の段階からジョブコーチ(Job - Coach)※による職場定着支援を開始することで、より良い環境で、より長期に働き続けるために職場環境を調整していくことに特徴があります。つまり、ジョブコーチによる支援を前提に就労を継続していくという考え方は、就職までの支援から継続的就労に向けた支援への転換を意味しています。この継続的就労支援を推進することは、職場環境の変化に対して障がいのある方の適応をどのように支援していくかにか

かっているといえます。

就労後の職場環境の変化は、障がいのある方の業務に新しい技能を要求することになります。その際に用いる支援方法として課題分析(Task Analysis)があります。課題分析とは、例えばカップ麺の調理方法のように一つ一つの工程を要素に分け、それを上から下へ時系列に手順として表すことで、技能習得を効率よく促すための手法のことです。それは、細かく分けられた手順ごとにどのような補助があれば、その作業を自立して行うことができたかという、経過を記録することにより、新しい環境でどのように適応していくのか、そのための支援はどのようにすればよいのかといった情報が、データとして記録されることになります。このような課題分析を用いた支援では、補助の内容や有無を自立遂行率として確認することで、チェックリストや手順書といった支援ツールが適切であったか、効果があったかを客観的に判断するデータとして、次のステージに移行する必要があります。単に、個人の能力を職業検査等で評価された情報だけでなく、目標に対してどのようにして能力を習得されたのか、また、何が原因で習得できなかったのか、ジョブコーチを含む環境が、障がいのある個人の作業習得にどれほど機能的に作用したかについて検証していくことが重要となります。そのためには、行動という目に見える状況から当該個人の発達を認め、応用行動分析学(Applied Behavior Analysis)※の理論的背景を基に行動の記録をとり、客観的なデータを頼りに支援を講じていくことが、職業リハビリテーション領域

における臨床発達心理士の独自性だと考えます。

また、課題分析を用いた支援では、ジョブコーチは作業補助のレベルを個人の理解に合わせて、介入度の低い順から「言語指示」、「ジェスチャー」、「見本提示」、「手添え」へと使い分けていきます。また、補助の量も徐々に少なくしていくことで作業自立に繋げていきます。一般的に、自立というと一人でできることと解釈されますが、私はそれだけではないと考えます。本来、自立とは、自発的に「やってみよう」と思う行動の選択肢が増えることであり、あくまで仕事をより効率よくするために工夫することだと考えます。そこから、仕事をするのがより楽しく感じられ、達成感を得られるよう支援することが大切ではないでしょうか。そのための理論的枠組みとして、機能的アセスメントによるアプローチがあります。それは、狭義の臨床心理学アプローチや、障がい学的な文脈での「個人モデル」や「社会モデル」とは異なり、就労支援という長時間の連続した観察記録から、個人の行動の変化や進歩を把握し、その行動の機能に即して課題解決の方向を探していくための手法が採られています。その支援方針は、ジョブコーチが職場実習に対し、障がいのある個人が自立するために必要な環境を新たに職場に導入し、それを恒久的に設定していく過程を通じて、個人の行動の選択肢の拡大を図っていくことです。生活上の問題や生き難さを修正するのではなく、どうすれば満足度が高まるか、また、生活環境における問題に対しどう適応していけばよいかについて、「今」できる活動や役割の設定を行い、単に訓練的ではない方法により、個人の「強み」が発揮でき、たとえ援助付きであっても仕事による達成感を得られることが大切だと考えます。

ジョブサイトひむろの就労支援では、訓練グループを就労へチャレンジするためアセスメントの場として位置づけ、「やりたい」と思う行動の拡大を目標に、自己決定を尊重しながら、成功体験や達成感を増やすことで就労に結び付けられるよう、日々の支援を行っています。また、一般就労を射程におきながら、状況に応じて日中の作業活動の場を保障して支援の幅をもたせると共に、職場定着支援と一体的に捉えたチーム支援の推進にも力を入れています。

今後は、チーム支援をさらに機能的に強化して、個人のニーズに応じた包括的なサービスを提供していくことが必要だと考えます。また、一人の支援者の経験や勘に頼るのではなく、前進的な仮説を立て、どんな環境設定によって何ができて、どのような支援があれば自立が可能であるかを、企業や支援学校といった他のセクターに情報を移行していくことが重要になってきます。

それには、有効な支援の方法論を多くの支援者が共有することで、より効果的で効率的な支援が必要です。また、日々の支援ではとかく独りよがりになりがちですが、それを回避するためには、現状の支援を再現可能な形で第三者に開示し、相対化して、評価を受けることの意義は大きいと考えます。しかし、現状では施設紹介や事例の記述など、逸話的レベルでのエピソードが主であり、実証に基づいた情報の伝達が十分に行われてきたとは言い難く、今後は有効な支援技法を構築するために、研修会やケーススタディー等を通じて、支援の経緯を組織的・実証的なエビデンスとして示していくことで、少しでも障がい者就労における科学的な手法の推進に寄与していければと思います。

※ジョブコーチとは、障がいのある個人の出来ることに着目し、権利としての就労を先行させ、職場において具体的な訓練を実施することで職場定着を実現する援助職のことです。

※応用行動分析学とは、B.F. スキナーが提唱した心理学の一分野であり、他者の行動の成立を支援しようとする人が、どのような環境設定を提示すればそのことが実現するかについて自らの行為の効果を検討しながら実践しようとする場合に用いられます。

参考文献

- 松田光一郎 (2009) . 就労を希望する自閉症者の職場定着に向けたセルフ・マネージメントの形成—雇用を前提とした実習支援を通じて. 臨床発達心理実践研究第 4 巻 171-179.
- 松田光一郎 (2009) . 就労を希望する知的障害者のジョブサイト・トレーニングにおける実践—作業チェック表を用いたセルフ・マネージメントの形成—. 知的障害福祉研究さぼりと第 56 巻第 6 号 42-48.

～臨床発達心理士としての幼児期支援～



自閉症療育センター Link

臨床発達心理士 ^{もと}本 ^や谷 ^{のぞみ}望

自閉症療育センター Link で勤務しております、本谷と申します。

今回「専門職としての私」ということで、私からは、この資格と出会ったきっかけや、現在従事している仕事内容について、説明をさせていただきます。

私は大学3年生の時、この社会福祉法人北摂杉の子会の入所施設「萩の杜」に10日間施設実習をさせていただきました。その10日間の実習がきっかけで、私は「自閉症の人たちへの支援」をしていきたいと感じました。その後、大学院にすすみ乳幼児期の発達を学びながら、法人内にある自閉症児の療育事業にて、非常勤として勤務をしていました。つまり、「萩の杜」での様々な体験から、私は、この臨床発達心理士の資格と出会ったわけです。

臨床発達心理士のホームページには、以下のようなことが書いてありました。

臨床発達心理士の仕事

発達をめぐる問題を査定し、具体的な支援をします。

子どもから大人まで、生涯にわたり支援します。

家族・地域への広がりをもった支援をします。

子育て、気になる子ども、

障害、社会適応などの問題に対応します。

(<http://www.jocdp.jp/html/general/O1.html> より引用)

臨床発達心理士の勉強会に何度か出席していますが、お会いした方の主な所属先は、医療や教育をはじめ、保育や障害者支援などを含む福祉分野など本場に様々です。機関へのコンサルテーションを主に行っている人がいると思えば、幼稚園・保育園などの現場の先生などもいらっしやって、多様な職業の方がおられるなあ、という感想をもったことがあります。

さて、私が臨床発達心理士の資格取得の勉強をし

てきて、また、資格をとってから勉強会や学会などに出席してきて、印象深く感じていることがあります。

まず、一人ひとりの“発達”の捉え方です。発達とは、子どもの時のことだけではなく、青年期・成人期、そして老年期までのことを指し、人は生まれてから死ぬまで発達し続け、成長をやめない、という観点が大きな特徴です。ちなみにこの北摂杉の子会には、自閉症児の療育センターや、自閉症に特化した日中活動支援施設、そして発達障がい者支援センターでの相談事業、就労支援事業などがあり、各ライフステージに応じた支援を行っています。先を見通し、生涯にわたる支援のあり方について、日々考えることが可能な環境であると思っています。

また、一人ひとりを取り巻く“環境”の捉え方も印象的です。環境を単なる外的要因と捉えるのではなく、個人の発達を“環境”との相互的な関係の中で捉えること、さらに、支援者自身も、相互に影響しあう存在であることを自覚することが必要であり、日常の環境に焦点をあてた支援を、としているのです。たとえば、家族への支援の技法として、「子どもへの治療と支援にとって、家族との協力関係は欠かせない」（長崎・古澤・藤田, 2002）と教本にも明記されています。この考えは、“家族”という単位だけではなく、“地域”という大きな単位にも共通するものと言えます。

このように「生物学的要因と環境要因の相互作用」に着目して、生涯発達の様々な問題の本質を理解し、支援の方策を見いだすことを、臨床発達心理士は行っているのだと思っています。

「生物学的要因と環境要因の相互作用」…このことは、今現在私が所属している療育支援部での業務において、とても大切にしていることのひとつです。

療育では、支援者が主導するのではなく、支援者と保護者とで協働関係を築くことを、方針のひとつとしているからです。

自閉症療育センターLinkでは、隔週に1回、保護者と療育スタッフとが、ご本人の様子を実際に見ながら、行動上の問題やその原因、支援方法に関する話し合いを行っています。

「保護者も、ご本人の療育にたずさわる療育者である。自閉症児ひとりひとりが別々の特徴を持っていることは明らかであるが、支援目標では、個々の自閉症児だけでなくその家族も含めて考えられている。私たちの役割は、家族と子どもに対して最も適した方法を用いて、各家庭のニーズに対する援助を行うことである」

(Schopler,1993)

と、ショプラー先生も記されているように、療育において私たち支援者は、アセスメントや情報収集に重点をおき、そして、ご家族の実行できることとできないこと、および得られる協力体制を明らかにすることを重視し、支援計画を立案しています。スタッフが取り組むだけではなく、保護者の方も取り

組みやすい支援を考え、さらに、協働での取り組みを経験することで、保護者のご本人に対する特性理解や、保護者の家庭における主体的な取り組みにも変化がみられることが多くあります。

私は障害のあるご本人が、それぞれの個性を大切にされ、地域社会の中で生活することを目指した支援が幼少期からなされるよう、取り組んでいきたいと考えています。また、今後もこの強みを生かして、特に発達障害児に対する、乳幼児期からの将来を見据えた計画的な支援の実践、そして家庭だけではなく、地域社会の機関との協働を目標に、保護者の方々や教師・保育者・支援者からの信頼を得られるよう、日々精進していきたいと考えています。

参考・引用文献

- 柏木恵子・藤永保監修・長崎勤・古澤頼雄・藤田継道編(2002)．シリーズ臨床発達心理学⑤育児・保育現場での発達とその支援．ミネルヴァ書房．
- Schopler, E. (1993)．幼児期の自閉症(伊藤英夫, 監訳)．学苑社．



シリーズ2回目(全4回予定)

地域における包括的支援体制の構築をめざして

～地域連携を考えて～



高槻市障害者就業
・生活支援センター
所長

成瀬 修さんより

障害者就業・生活支援センターとは、就職や職場への定着にあたって就業面における支援とあわせ、生活面における支援を必要とする方を対象として、身近な地域で、雇用、保健福祉、教育等の関係機関との連絡調整を積極的に行いながら、就業及びこれに伴う日常生活、社会生活上の相談・支援を一体的に行う施設です。

平成22年4月末で544名(身体118、知的288、精神131、その他7)の方が登録されています。しかしながら就労中の方は215名と半分以下であり、たくさんの方が今も仕事を求めて活動をされています。

当センター設立当初から「あんだんて」さんに生活支援を担ってもらっていた経過があり、現在も定期的な打合せや、余暇支援などを一緒に行っています。また、運営協議会には常務理事の松上様に参加して頂き、ご助言を頂いています。地域の就労支援ネットワークにおいては「ジョブサイトひむろ」さん、「ぶれいすBe」さんに参加して頂き、就労支援について学習会を重ねています。今年度は、さらに連携を深め、他の就労移行支援事業を実施されている2法人を含めて4法人で「共同事業体ジェイ・フォー・シー (J4C)」を設立。高槻市から事業を受託して共同で職場開拓が始まりました。

単純な考えですが、地域に就労支援に精通した人材が増えれば増えるほど地域の「就労支援力」が上がり、適切な支援を提供することで「企業の理解」も深まり、「働きやすい、住みやすい」地域になると考えています。互いに学びあい、就労支援に精通した人材を地域で育成する仕組みづくりを皆様と取り組んでいきたいと考えています。



【発足】 私たちNPO法人チャイルズは、2003年1月に「知的障がい児の明日を考える会チャイルズ」として親の会の活動をスタートさせました。2007年10月にNPO法人を取得、主に大阪市内を対象に、発達障がい児を育てる保護者が共に支えあう目的で、啓発活動、相談業務、家庭実践のための勉強会などを続けています。

【活動内容】 教職員研修や保育士研修、PTAの人権講演会など子どもたちに直接関わってくださる方々への講演や、人事院の研修事業、市町村職員研修、民生委員さんの研修、ヘルパー研修など、家庭そのものを支援してくださる機関への啓発活動も行ってきました。また、区役所の相談委託業務なども行っています。大学や研究機関への協力、社会福祉協議会との協働など、医療、福祉、教育、行政、地域との連携に動んできました。



【チャイルズの構成】 チャイルズの正会員は全て発達障がい児を持つ保護者で構成されています。2009年3月港区弁天町に事務所をかまえ、分科会や各種研修会、会員の交流に力を入れています。先輩保護者が後輩保護者の相談に乗ることができるよう情報を引き継ぎ、ともに支え合い大きな家族のように子育てをしていくことを目指しています。

【北摂杉の子会との連携】 理事をはじめ多くのチャイルズメンバーが、北摂杉の子会の療育部門でお世話になってきました。療育終了後、各地域に戻り地域活動をするなかで、貴法人で学んだノウハウがおおいに活かされています。新澤先生をはじめ、北摂杉の子会スタッフの先生方にはこれまで様々な

ご指導を賜り大変お世話になってきました。

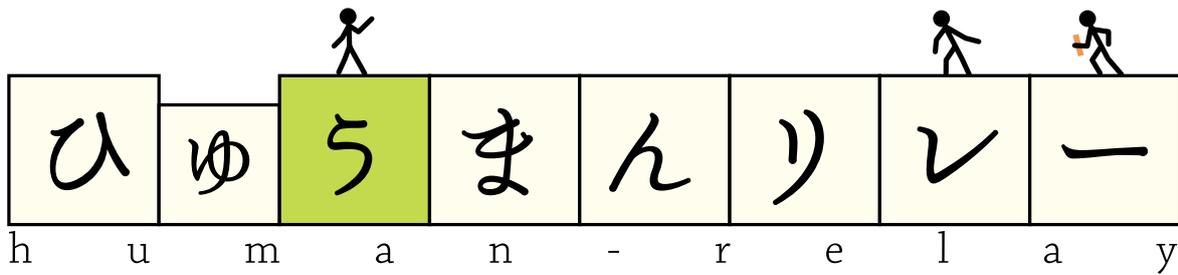
【今後の展望】 私たちチャイルズでは、保護者同士であればこそ理解できる様々な悩みを共有するピアカウンセリング、教育や福祉などの機関と連携して行う地域生活支援のコンサルテーション、支援グッズ作成会などの自助活動の取り組みなど、「出来る人が、出来る時に、出来ることを」をモットーに今後も無理なく地道に活動を続けていきたいと考えています。今後とも宜しくお願いいたします。



NPO法人チャイルズ
代表

是澤 ゆかりさんより





NPO法人 わの会理事長 日本ALS協会東京都支部 佐々木 公一さんより

当事者研究 自分の病気を研究して感じたこと

自己紹介

1996年右上肢筋力低下で発症(49才)、ALS(筋委縮性側索硬化症)との告知を受ける、1999年気管切開(咽頭摘出)、2000年呼吸器つけて在宅療養、2004年「きらっと生きる」NHKテレビ出演、2005年『やさしさの連鎖』出版、『生きる力』出版(編著)、2007年ETV特集「生のかたち」NHKテレビ出演、東海大学大学院健康科学研究科入学、2009年9月修士課程終了(62才)、修士論文を厚生労働省QOL向上班等で発表

感謝

週2回登校(往復約3時間半)、3日連続5回の集中講座(1年生の時)、そして約2年に及ぶ修士論文での悪戦苦闘。終始支えていただいた数えきれないたくさんの皆様への感謝の思いを馳せながら、振り返ってみる。

発見

当事者研究にとりくんで、たくさんの教訓をえた。予想を超える困難やトラブルも数多くあった。アンケート結果の整理のような複雑な作業では、がんばってはいけないこともわかった。何時間もかけてもできなかったことをパソコンボランティアが数分でやり終える、ということもよくあった。

判断

最後まで問われたのは、作業が自分にできるかどうか、時間に間に合うかどうか、誰に何をどのように頼むかの判断であった。それからあきらめないことであった。発見に胸躍らせ、心ときめかしながらも、まさに死闘であった。重度障害者の研究支援のありかたは、検討を要する大切な課題だと考える。当事者研究こそが、問題解決の近道と考えるからである。

オンとオフ

作業内容は、パソコンでひとつの言葉や文章を別のページにコピーする時、1) コピーして、2) 移動して、3) 所定の場所に貼り付けるまで24回、「本」と書くのに12回、「出版」と書くのに25回スイッチを押す。この

ようにしてオンとオフだけで画面を動かし文字を書く。文章を作る。発信する。

ちょっと

それから、ちょっと計算する、ちょっと図に書いてみるができず困った。修士論文のアンケート集約のための統計の勉強の中でよく感じた。ちょっと振り返って読む、ちょっとほかの本をみる、ちょっと参考資料にあたってみるなどができたらどんなにいいだろう、関係項目があの本のあのあたりに書いてあるはずだ、とうめしく思いながら、約50冊の本と約120の論文を読んできた。苦しんでいた問題の解決案や時に名案が浮かんだ時、メモができたらいいなとよく思った。

命の叫び

このような作業の繰り返しの中での約2年かけた約8万字の修士論文の作成であった。それは70名のALS療養者の最高10時間、平均4.14時間(アンケートの書き込み時間)かけて凝縮された命の叫びであった。こうして綴られた調査結果は、魂の叫びのまとめであった。

ALSを生きる

ALSを生きるということ。それは、たくさんの人に助けられて生きるということ。自分がやることと人にやってもらうことが、同じ価値をもつということ。自分がやることと機械にやってもらうことが、同じ価値をもつということ。そして、目的と目標をもち、そのために努力して生きるということ。人にまじわり人に学び、人の役に立って生きるということ。からだのどこも動かなくても、工夫してがんばればなんでもできるということ。私は、ALS療養者70人の生きるための物語からこれらを学んだ。



不安をのりこえて

私は今年の8月で67歳になる、幼い二人の孫のいるバアバです。私は自慢じゃないですがいろんな病気を持っています。まず頭の中には小さな動脈瘤が二つあり、目はほとんど光も見えない状態です。座っているとユラユラするので椅子に座る事もできず、一人で歩くこともできません。だからほとんど寝たきり状態です。私はオムツだけはしたくないので伝い歩きをしながら必死でトイレだけは行っております。あとはヘルパーさん達に助けを頂ながら生活している状態です。でも命ある限り前向きに、できるだけストレスを溜めないようにし、ラジオで世の中の情報を得、音楽や落語などを聴いて笑い楽しんでおります。こういう心境になったのはごく最近のことで今までは不安で不安で何度か救急車を呼んだことがあります。

遡れば、私は神戸で生まれ育ち、29歳の時に大阪へ嫁ぎ、二人の娘に恵まれ、25年前主人の転勤で東京へ引っ越してきました。東京には誰ひとり知り合いもなく、子供たちもなかなか友達ができず、思春期に入っていく子供たちを育てていくのにかなり悩みました。

東京へ来て半年目に私は視力が両眼とも1.2でしたが眼に異常を感じ、いろんな病院へ行き、いろんな検査をして頂きましたがなかなか原因がわからぬまま、蛇の生殺しのごとく徐々に徐々に視野が狭くなっていきました。原因がわからず不安でしたが、でも体は元気だったので家事も子育てもなんとか続けていきましたが、私もひどい更年期障害に突入し、眼の進行と共に体調も悪くなり、自分の健康に対する不安感が募っていき、だんだんと暗くなっていきました。それで娘が私を心療内科へ連れていくと共に眼の障害者手帳の申請をし、手帳と白杖を受け取った私は初めて「あ、自分は障害者だ」と知らされ大変ショックを受けました。そして白杖を使用する事にも大変抵抗を感じ、白杖をつく事が嫌でした。その時は今よりもまだかなり見えていた時でした。自分を障害者と認める事がなかなかできず益々暗くなっていく私の状態を娘が心配し、福祉の作業所を探し気の進まない私を無理やり作業所へ連れて行きました。行ってみるといろんな障害者の方がいて、今までは自分だけが障害者だと思っていましたが、初めて自分だけではないということを知り、なおかつ皆楽しそうにおしゃべりをしながら明るくいろんな作業をしておりました。

初めは私は無口でおとなしかったのですが、皆のジョークなどにつられ笑顔がでるようになり、私自身もだんだんと明るくなっていきました。特に家庭的なお食事がおいしく、職員の方に送迎していただき、優しく

NPO法人 わの会 森尾 知佐子さんより

してくださり、私は作業をしに行くというより遊びに行っている感覚でした。

しかしだんだんと、ここは作業をするところだということを知り、必死になってすると手先の不器用な私は肩が凝りだしてきて作業するのが辛くなり、何年か後に作業所を辞めました。しかしその作業所に行ったことでいろんな事を学び、いろんな人との出逢いができ、いまだに何らかの形でそういう方達と繋がっております。

今、こういう寝たきりになっているのは作業所を辞めた何年か後にめまいがひどくなり、脊髄の検査をするために三週間入院し、その間ベッドに寝たままでしたので、それ以降寝たきりの状態が続いております。

この状態で何か生きがいになる事はないかと考え、私は文章を書くのが好きなので、小説だったら代筆して頂きながら書けるのではないかと思いつき、自叙伝ではないですが家族愛の願望とか私が福祉の作業所に行って体験した障害者の心の葛藤とか命の重みなどをフィクションとして何度も何度も書き直しながら四年間かけて2009年の9月に出来上がり、私は書き終えた達成感の喜びを得ました。

最後に障害者の一人として医療・福祉関係に携わっている方に望む事があります。私達障害者を憐れみの目で見ないで下さい。障害者の人格と健常者の人格を対等に扱って下さい。そしてなおかつ優しく思いやりのある態度で接して頂きたく思います。

(代筆 毛利百)



※写真は当法人にご寄贈いただきました森尾さんご執筆の本です。

次号は、わの会常任理事、ヘルパーステーションあいあいサービス提供責任者の佐々木節子さんです。



お客様のニーズにおこたえするために ～Cafe Beコンサートのとりくみ～

高槻地域生活総合支援センターふれいすBe

栄養管理士 ^{まつ}松 ^{もと}本 ゆかり

高槻地域生活総合支援センターふれいすBeで勤務し、管理栄養士業務とCafe Be運営業務を担当している松本です。このたびCafe Be内で開催した「Cafe Beコンサート」の取り組みについて、簡単にご紹介させていただきます。

1. Cafe Beのご紹介

Cafe Beは、2009年5月にふれいすBe内にオープンしました。席数は約50席あり、木のぬくもりあふれるおしゃれな空間とゆったりとしたスペースが特徴です。カフェには豊中市の自家焙煎珈琲専門店「島珈琲」のプロ焙煎士が常駐し、本格的な味が楽しめます。またふれいすBe利用者さんの就労実習の場として、数名の利用者さんにカフェの運営に携わっていただいています。



店内

2. オープン当初の課題

Cafe Beの営業を始めてから、たくさんのご意見をお客様よりいただきました。

◇コーヒー以外のメニューが少ないので、残念です。

本格自家焙煎珈琲のお店として、コーヒーの味にこだわるお客様に喜んでほしいという思いでメニューを考えましたが、お客様の中には、お子様連れの方、コーヒーが苦手な方、カフェインを控えたい方、など様々な方がおられます。コーヒーを飲まれるお客様にも、飲まれないお客様にも満足していただけるよう、紅茶・ジュース・デザートを充実させました。すると徐々にお子様連れのお客様が増えました。また一部のデザートは、高槻市内のお店(ケーキ店Cloveさん)や施設(障害者施設サニースポットさん・CoCoはうすさん)から仕入れ、地域とつながりのあるカフェを目指しています。

◇カフェというからには、ランチを食べてドリンクとデザートでゆっくり過ごしたいです。

ランチを他の店で食べてから移動して、Cafe Beでドリンクを飲む…そんなことはいくらドリンクが

美味しくても、移動の手間がかかって大変です。そこで、平日限定の日替わりランチメニューをはじめ、お客様にゆったりとした時間を過ごしていただけるようにしました。

◇施設内にあるので、お店に入りづらいです。

◇お店の場所がわかりにくいです。

オープンしたばかりで知名度も低いCafe Beを、少しでも多くの方に知ってもらいたい、地域の方にもっと気軽に足を運んでもらいたい、という思いから、地域開放イベントのひとつとしてCafe Beコンサートを企画しました。

3. Cafe Beコンサートの実施

第1回目のコンサートは2009年8月に実施し、演奏はジョブサイトひむろ職員の知人の学生ブラスバンドにお願いしました。バンド側とカフェ側とで打ち合わせやリハーサルを何度も重ねて迎えた当日は、反省点だらけの初コンサートとなってしまいました。予想を大幅に上回る来場者数でカフェは大混雑。大勢のお客様対応に不慣れなこともあり、ドリンク提供までに時間がかかりすぎ、お客様を長時間お待たせしてしまいました。目の前の楽器から奏でられる素晴らしい生演奏により、好評の意見はいただけましたが、すべてのお客様に満足していただけるような状況ではなかったかもしれません。

第2回目のコンサートは2009年12月に実施し、ジョブサイトひむろ職員さんご友人にクラリネットの演奏をしていただきました。前回の反省をもとに、1日1公演の演奏から1日2公演に増やし、お客様に好きな時間を選んでいただけるように改善しました。店内レイアウトも工夫し、前回よりも席数を増やしつつ通路は広めに空けておき、お客様もスタッフも自由に行き来できるスペースを確保しました。「これで対策は万全!」と臨んだコンサートにも、それでもまだ落とし穴がありました。ドリンク提供が間に合わなかったのです。寒い時季で温かいドリンクの注文が増えると

ということが、十分に想定できていなかったのが原因でした。温かいドリンクは注文をうけてからその都度作り上げるので、手間も時間もかかってしまい、すべての注文を出し終わったのは、コンサート最後の曲を演奏しているときでした。

本格自家焙煎珈琲のお店として中途半端な品物は出せない、でもこだわるあまりにお客様を長時間お待たせしてしまってもいいのか…。コンサートに携わるスタッフ間で悩みました。一番苦悩していたのはプロ焙煎士の島さんだと思います。何度も話し合った結果、お客様に満足して帰っていただくことが最終目標であることはかわりないので、それを心におきつつ、こだわりも残しつつ、一番良い方法を見つけ出しました。

第3回目のコンサートは2010年2月に行いました。演奏は、ぶれいす Be 職員の知人であるアコースティックデュオとゴスペルグループの二組にお願いしました。まずは話し合いの結果見出したメニュー縮小作戦です。前回前々回のコンサートでは十数種類の中から選べたドリンクメニューを、今回は6種類のみに限定。通常のカフェ営業時には一杯ずつドリップしてお出しするコーヒーを、コンサート時のみ数杯まとめてドリップしますが、プロ焙煎士の本格珈琲豆を使って素材にはこだわり、グルメなお客様にも納得していただけるようにしました。ジュ-



コンサート 8.22

ーが、プロ焙煎士の本格珈琲豆を使って素材にはこだわり、グルメなお客様にも納得していただけるようにしました。ジュ-

スやデザートも条件付きで揃えることで、小さいお子様が困らないようにしました。

店内レイアウトはさらにひと工夫。ほとんどのテーブルを撤去し、席数を大幅に増やしました。2回のコンサートを経験して慣れたスタッフが接客し、コンサートの司会もカフェスタッフが行うことで、スムーズな対応と進行に加え、お客様と出演者との交流も生まれました。3回のコンサートを経て、やっと円滑にイベントを終了することができ、お客様に満足してお帰りいただけるようになりました。

4. コンサートの効果

Cafe Be コンサートにより様々な効果が得られました。利用者さんやご家族からは、「障害のある利用者さんにとって、生演奏を楽しむ機会は限られており、とてもありがたい。定期的にやってほしい」という嬉しい意見を聞きました。また、福祉関係者以外の一般のお客様の来店が増え、その中から「私もコンサートで演奏してみたい」という提案もあがりました。さらに、メディアによる取材依頼が増加し、2010年1月と4月には新聞社発行の地域ミニコミ誌に掲載され、2010年4月中旬から書店で販売されている「高槻 Walker 2010」には、「コーヒーの美味しいお店」として紹介されています。

5. Cafe Be の今後

徐々にお客様の数が増えてきている今こそ、この状況に安心せず、常にお客様に満足していただけるよう創意工夫し続けていかなければいけないと思います。今後のCafe Beの販促活動としては、毎日のカフェ営業に加え、イベントの企画、場の提供、物販の強化など様々なことに取り組みます。

◆ Cafe Be の今後の主な取り組み

イベント	コンサート	年5回実施予定
	トークカフェ	講演会(お茶会付き)
	コーヒー教室	プロ焙煎士によるコーヒーのいれ方講座
場の提供	ひむろカフェ開所	ジョブサイトひむろご利用者のご家族によるCafe Be利用
	ニットカフェ	相談支援ご利用者の編み物の会
	手づくりの会	萩の杜ご家族による手芸の会
	英会話教室	地域の方による少人数制の英会話教室(週2回)
物販	季節ごとの物販	お中元、バレンタイン用などのギフト
	通販の強化	Cafe Beに行かなくても商品が購入できるシステムづくり

これからも、たくさんのお客様からご意見をいただき、スタッフ間で話し合いを重ね、地域の方に愛されるお店づくりを目指していきたく思います。これからもCafe Beをどうぞよろしく願いいたします。

表彰式 (21年度対象)

当法人では職員の意識向上をねらい、人事制度の一環として人事考課制度および表彰制度を導入しています。21年度分の表彰の様子をお伝えいたします。

4月17日(土)に行われた法人研修会において、平成21年度の業務貢献表彰および資格取得表彰を行いました。業務貢献表彰は今回2件が表彰対象となりました。

資格取得表彰は、精神保健福祉士2名、介護福祉士、社会福祉士の各1名ずつです。取得した資格が業務内において存分に活かされることを期待して表彰を行いました。

【業務貢献表彰】

小林哲理・松本ゆかり

『CafeBeにおけるカフェコンサートシリーズの実施』
ジョブサイトひむろ職員一同・松本ゆかり

『ジョブサイトひむろカフェ開所の取り組み』

【資格取得表彰】

(精神保健福祉士) 高津 周平 伊名岡 宏

(介護福祉士) 中野麻衣子

(社会福祉士) 中西 彩

今回の資格取得者を含め、正職員・嘱託職員 85名中の有資格者数(複数取得者ふくむ)
社会福祉士:20名 介護福祉士:17名 精神保健福祉士:5名 看護師:1名 臨床心理士:2名
臨床発達心理士:2名 保育士:9名 作業療法士:2名 言語聴覚士:1名 理学療法士:1名
栄養士:1名 管理栄養士:1名
(平成22年4月17日現在)

お知らせ

◎障害者自立支援調査研究プロジェクト冊子完成の報告

平成21年度厚生労働省障害者保健福祉推進事業『強度行動障害を持つ自閉症者の地域移行を支えるGH(グループホーム)・CH(ケアホーム)、及び入所施設の機能の在り方に関する先進事例研究』の冊子が完成しましたので報告いたします。



内容

テーマ

『強度行動障害を持つ自閉症者の地域移行を支えるGH・CH、及び入所施設の機能の在り方に関する先進事例研究』

1 はじめに

- 1 背景
- 2 目的

2 先進事例研究

- 1 はるにれの里〈ケアホーム視察〉〈ディスカッション内容〉
- 2 GHA (Group Homes for the Autistic, Inc)

3 職員養成カリキュラム

- 1 ロールモデル研究
- 2 研修コンテンツ研究

4 考察と提言

- 1 支援体制(マネジメント)
- 2 人材育成とカリキュラム
- 3 サービス評価システム
- 4 人権擁護・虐待防止システム
- 5 24時間365日の安心・安全な支援
- 6 ケア・ホームのハード面(環境)の工夫
- 7 社会保障制度
- 8 地域の理解

【添付資料】GHAの職務基準書

※上記冊子内容は法人ホームページからダウンロードできます
<http://www.suginokokai.com/>

法人店舗お客様の声

北摂杉の子会には、コロッケの直売店とカフェの2件の店舗があります。どちらも地域住民の皆様にご利用いただいておりますが、おいでいただいたお客様の声をご紹介します。

『よどのコロッケ』 お客様の声

- 肉じゃがコロッケがおいしいです（一般）。
- 梅しそコロッケがおいしいです（高校生）。
- ママがおかかちーず好きなので毎日買いに来てます（高校生）。
- おやつにいいわね～。
- 年寄りやからたくさん揚げ物食べられないから、この小さいのがいいわ。
- （店番している利用者のKさんに）毎日頑張っているわね！
- 変わったコロッケだね～。
- これがコロッケなの？へえ～！
- ふつうのコロッケありませんか？
- 消費税いらないの？安いね！
- テスト80点で1個おまけのためにテスト頑張ってる！とったで！（よどのコロッケでは学生さんが80点のテストを持ってきたら1個おまけにしています）
- あらっ、いつからこんなお店あった？気付かなかったわ！
- そふとコロッケおいしいです。
- ビールのおつまみにいいね～。
- おいしいからまた買いにきたわ。（買ってすぐに食べてリターン）
- ロゴがかわいいね！

『Cafe Be』 お客様の声

◇店の雰囲気について

- ゆったりとくつろげる雰囲気がいい。
- ベビーカーに子供を乗せたまま店内に入れるのが嬉しい。
- 天気の良い日にテラス席でぼんやりするのが幸せ。
- 犬の散歩の途中でも、テラス席ならコーヒーブレイクができる。

◇カフェメニューについて

- 店主が一杯ずつじっくりドリッピングしてくれるのを眺めながら、店主とコーヒー談義できるのが楽しい。
- カプチーノに描いてもらえる ハート♥がかわいい。
- 極上アイスコーヒーをオーダーすると、店主がシェイカーで一杯ずつ作ってくれるのが、贅沢で嬉しい。
- 熱々のエスプレッソがバニラアイスにかけられるのを、目の前で見られて嬉しい。（ジェラートコンカフェ）

- いままで苦手だったコーヒーが、はじめて Cafe Be で飲めた！

◇ランチについて

- 麦ごはんがヘルシーで嬉しい。
- デザートが200円で食べられるのでオトク。
- 一人暮らしなので、栄養バランスのとれた食事が食べられて良い。
- ごはん大盛りサービスがあるので、小さい子供にとりわけて食べられてオトク。
- 日替わりランチが1種類しかない。
- お子様メニューがない。
- 店に行くと、当日のランチがすでに売り切れていると、ショック！

◇物販

- Cafe Be で買ったミルクコーヒーの素を知人にプレゼントしたら、とても喜ばれてまた買ってきてほしいと言われた。
- 谷町ぼんすがすごくおいしい！
- 孫が喜ぶので、いつもビスコッティを買って帰ります。

◇イベント

コンサート

- お手頃価格で、毎回違った演奏が聴けてうれしい。
- パンの販売が嬉しかった。
- 長年会えていなかった友人と、コンサートで偶然再会した。
- 一緒に歌ったりできる参加型のコーナーがたのしい。
- 私もコンサートで演奏させてほしい！
- 子供でも楽しめる曲をもっと増やしてほしい。

コーヒー教室

- 目の前で焙煎の様子を見られて感動した。
- コーヒーの生豆って茶色かと思っていた。（本当は赤色）
- プロ焙煎士の人柄が、アットホームな雰囲気にしてくれて楽しい。
- コツを教えてもらったので、自分でも美味しいコーヒーを煎れることができた！

掲 示 板 コ ー ナ ー

(平成 22 年 3 月から平成 22 年 5 月まで)

法人本部総務部掲示板

- | | | | | |
|-------|--|--|--------|--|
| 3月 7日 | 経営会議 | | 分科会 3 | のぞいてみよう自閉症の世界
(世界自閉症啓発デー講演会の再演) |
| 17日 | 総務会議 | CoMedix の進捗報告
事務処理手続きの確認 | 23日 | 総務会議 CoMedix の進捗報告 |
| 23日 | 運営会議 | ぶれいす Be の改善計画の進捗に
ついて
授産事業の強化について
法人研修計画
講師派遣について
法人年間スケジュール
人事考課について | 27日 | 運営会議 ぶれいす Be の改善計画の進捗に
ついて
授産事業の強化について
5月理事評議員会について
平成 23 年度職員採用について
高齢化・重度化検討チームについて
作業工賃について |
| 28日 | 第 65 回理事会・第 36 回評議員会
会場 生涯学習センター 研修室 | 決議事項 第 1 号議案 規則類の変更の件
第 2 号議案 寄付金受託の件
第 3 号議案 ぶれいす Be 短期入所
再開の件
第 4 号議案 平成 22 年度北摂杉の子会
事業計画 (案)
第 5 号議案 平成 22 年度北摂杉の子会
予算 (案) | 5月 12日 | 経営会議 |
| 4月 1日 | 辞令交付 | | 17日 | 法人監査 |
| 5日 | 経営会議 | | 25日 | 運営会議 ぶれいす Be の改善計画の進捗に
ついて
授産事業の強化について
法人リスク管理について
管理職研修について
授産検討会議の報告
23 年度職員採用の件 |
| 17日 | 法人研修
会場 高槻現代劇場 第 1 展示室 第 2 展示室
資格取得表彰・業務貢献表彰の発表
平成 22 年度理事長方針の発表
各事業所の事業方針の発表
分科会 1 就労支援
分科会 2 プレゼンテーションのスキル | | 30日 | 第 66 回理事会・第 37 回評議員会
会場 生涯学習センター 第二会議室
決議事項 第 1 号議案 平成 21 年度
事業報告承認の件
第 2 号議案 平成 21 年度
決算承認の件
第 3 号議案 平成 21 年度
監査報告の件
第 4 号議案 資格手当支給に伴う
規程の改正の件
(佐々木寛 記) |

萩の杜掲示板

- | | | | |
|-------|-------------------------------------|-------|------------------------------------|
| 3月 2日 | 給食会議、オーラルヘルスケア | 30日 | 見学受入 (2 名) |
| 3日 | 課長主任会議 | 4月 1日 | 精神科相談 |
| 4日 | 精神科相談、マニュアル検討委員会 | 2日 | 歓送迎会 |
| 5日 | 日帰り旅行 (淡路島) | 6日 | 萩の杜社会議、オーラルヘルスケア |
| 8日 | 萩の杜社会議、散髪 (Bg)、ふれっと会議 | 8日 | 内部研修 (講師：中山清司氏) |
| 9日 | 美化の日、オーラルヘルスケア | 9日 | 美化の日 |
| 11日 | 旅行委員会、避難訓練 (ふれっと) | 12日 | 散髪 (Cg) |
| 12日 | 見学者受入 (6 名) | 13日 | 萩の杜運営会議、オーラルヘルスケア |
| 15日 | 課長主任会議 | 19日 | 安全対策委員会 |
| 16日 | オーラルヘルスケア | 20日 | オーラルヘルスケア、リーダー会議 |
| 17日 | ふれっとレク (山田池公園) | 21日 | ふれっとレク (がんこ) |
| 18日 | 精神科相談、見学受入 (1 名)、障害程度区
分認定調査 | 22日 | 精神科相談 |
| 19日 | 見学受入 (3 名) | 26日 | 散髪 (Ag)、個別支援計画懇談開始 (~ 5 月
14 日) |
| 20日 | 見学受入 (2 名) | 5月 1日 | GW帰省 (~ 5 日) |
| 23日 | 旅行委員会、オーラルヘルスケア | 7日 | 美化の日 |
| 25日 | 生活介護係会議 | 10日 | 萩の杜社会議 |
| 29日 | 余暇委員会、散髪 (Dg)、ふれっと会議、見
学受入 (2 名) | 11日 | 萩の杜運営会議、オーラルヘルスケア |
| | | 13日 | 精神科相談、ぶれす会議 |

18日 ケース報告会 (Ag・Bg・ふれっと)
 19日 日帰り旅行 (有馬温泉)
 20日 精神科相談

25日 リーダー会議、オーラルヘルスケア
 26日 ふれっとレク (太秦映画村)

(下 記)

ジョブサイトひむろ掲示板

3月 9日 エアロビクス (にこにこ保育園)
 15日 エアロビクス (ゆう・あいセンター)
 18日 ジョブサイトひむろ職員勉強会
 (テーマ「発達障がいへの対応」)
 19日 ジョブサイトひむろ会議
 22日 祝日開所日
 就労グループレクリエーション
 (カラオケ ビッグエコー)
 23日 エアロビクス (ゆう・あいセンター)
 24日 防災訓練 (避難訓練・消火訓練)
 ※3月見学者 3組5名
 3月実習生 5名延べ7日間
 3月ボランティア 2名1日間
 3月その他来訪者 26名
 4月 6日 そうぞう3グループレクリエーション
 (西宮市北山緑化植物園)
 8日 陶芸グループレクリエーション (アミティ舞洲)
 13日 エアロビクス (にこにこ保育園)
 15日 そうぞう1グループレクリエーション
 (万博記念公園)
 ジョブサイトひむろ職員勉強会
 (テーマ「知的障がい者の心理」)
 16日 ジョブサイトひむろ会議
 19日 エアロビクス (にこにこ保育園)

21日 療育グループレクリエーション (万博記念公園)
 27日 エアロビクス (にこにこ保育園)
 28日 陶芸レクリエーション (長岡天満宮)
 29日 祝日開所日
 就労グループレクリエーション
 (花博記念公園鶴見緑地)
 ※4月見学者 3組4名
 4月実習生 1人1日間
 4月ボランティア 1組1日間
 4月その他来訪者 44名

5月 1日 春季休暇 (~5日)
 18日 エアロビクス (ゆう・あいセンター)
 ジョブサイトひむろ職員勉強会
 (テーマ「ジョブサイトひむろについて」)
 19日 洗濯グループレクリエーション (ひらかたパーク)
 21日 ジョブサイトひむろ会議
 24日 エアロビクス (ゆう・あいセンター)
 26日 陶芸グループレクリエーション
 (イオン大日ショッピングセンター)
 29日 土曜カフェ開所日 (Cafe Be)
 ※5月実習生 1名1日
 5月ボランティア 1名1日
 5月その他の来訪者 22名

(平野 記)

発達障害支援部掲示板

○大阪自閉症支援センター

保護者研修 自立課題講座・実践講座 各2回実施
 フォローアップ講座 1回実施
 巡回相談 和泉市教育委員会 巡回相談 (小学校1回)
 実践報告会、連続講座①
 高槻市教育委員会 実践報告会、連続講座①
 大阪府委託研修
 心理士研修、保健師研修、
 講師派遣 コネクションズおおさか、大阪国際大学、
 東大阪市療育センター、

4月 22日 大阪府第4次障がい者計画検討委員会出席
 4月 23日 発達障害者支援センター全国連絡協議会役員
 会 (東京) 出席
 5月 14~15日
 発達障害者支援センター職員研修会 (秩父学
 園) 派遣
 5月 18日 成人期家族グループ
 5月 21日 大阪府発達障害団体ネットワーク第1回ネッ
 トワーク会「知的な遅れを伴わない発達障
 がいの子どもたちの高校進学-私立編-」(事
 務局)
 5月 28日 厚生労働省発達障害者支援開発事業報告会出席

○アクトおおさか

3月 2日 大阪府発達障害団体ネットワーク運営委員会
 出席 (事務局)
 3月 5日 厚生労働省発達障害者支援者育成事業第2回
 企画委員会出席 (事務局)
 3月 8日 成人期家族グループ
 3月 8日 福祉・教育連携事業 三島ブロックリーディ
 ングスタッフ研修報告会
 3月 19日 大阪府発達障がい支援体制整備検討委員会出席
 3月 26日 福祉・教育連携事業 富田林支援学校実践報
 告会
 4月 12日 大阪府発達障害団体ネットワーク運営委員会
 出席 (事務局)

○大阪府成人期発達障がい者日中活動・就労準備支援 モデル事業

3月 4日 ケース検討会
 3月 10日 家族グループ
 3月 11日 モデル事業振り返り検討 (花園大学橋本教授
 スーパービジョン)
 3月 12日 日中活動プログラム終了
 3月 19日 就労準備プログラム終了

(新澤 記)

発達障害児療育支援部掲示板

■児童デイサービスセンター an

- 3月 5日 保護者研修入門 A
 12日 保護者研修入門 B
 療育終了
 15日 年度まとめ面談（～18日）
 22日 新年度準備（～29日）
 30日 職員発達検査実技研修
 4月 1日 新規療育児発達検査（～7日）
 8日 22年度療育開始
 26日 新規療育児検査報告面談（～28日）
 5月 14日 保護者研修入門
 22日 保護者指導実践 A
 28日 保護者指導実践 B

■自閉症療育センター will

- 3月 4日 保護者指導 入門 I
 11日 保護者指導 入門 II
 18日 保護者研修 実践
 22日 22年度療育児決定
 新年度準備（～29日）
 30日 職員発達検査実技研修
 4月 1日 22年度療育児発達検査・面談（～22日）
 23日 22年度療育決定者説明会
 24日 22年度療育児発達検査・面談（～30日）

- 5月 6日 22年度療育児発達検査・面談（～18日）
 20日 契約会・保護者研修 入門 A・B
 21日 大阪府療育事業ネットワーク会
 25日 療育開始

■自閉症療育センター Link

- 3月 4日 保護者指導 入門 A
 10日 同笑会（Link 療育終了保護者）
 11日 保護者指導 入門 B
 18日 保護者指導 実践
 22日 22年度療育児決定
 新年度準備（～25日）
 26日 22年度療育児発達検査（～29日）
 30日 職員発達検査実技研修
 4月 1日 22年度療育児発達検査・面談（～19日）
 20日 22年度療育決定者説明会（～21日）
 21日 22年度療育児発達検査・面談（～30日）
 5月 6日 22年度療育児発達検査・面談（～19日）
 13日 実践・交流会（21年度療育終了保護者対象）
 20日 契約会・保護者研修 入門 A・B
 21日 大阪府療育事業ネットワーク会
 24日 療育開始

（谷岡 記）

ジョブサイトよど掲示板

- 3月 2日 エアロビクス（生活介護）
 3日 施設見学（3名：株式会社オーグス総研、エル・チャレンジ）
 5日 よど運営会議 生活介護会議
 8日 支援員会議
 9日 十三地区管理職会議
 11日 淀川区自立支援協議会定例会（佐々木祐）
 12日 障がい者自立支援制度研修参加（佐々木祐）
 ドラフト会議（ジョブジョイントおおさか）
 ※参加機関：エルムおおさか、堺市発達障害者支援センター、大阪市障害者就業・生活支援センター、堺市障害者就業・生活支援センター、アクトおおさか
 13日 土曜レクリエーション（ひらかたパーク）
 15日 施設見学（3名：大阪市職業リハビリテーションセンター）
 16日 コロケ厨房店舗見学（2名：NPO 法人 WEL'S 新木場）
 障がい者雇用啓発支援セミナー参加（佐々木祐）
 エアロビクス（生活介護）
 17日 給食会議
 18日 よど運営会議 生活介護会議 避難訓練
 19日 日本財団監査（コロケ店舗への助成金決定のため）
 施設見学会
 （22名：難波特別支援学校、兵庫県立こやの里特別支援学校 他）
 23日 支援員会議
 25日 施設見学
 （3名：すいた障害者就業・生活支援センター 他）
 26日 よど運営会議 外食プログラム（生活介護）
 29日 職員全体会議 支援員会議
 30日 法人授産会議（佐々木祐）
 31日 職員全体会議
 4月 1日 新規利用者3名受け入れ
 2日 施設見学
 （3名：すいた障害者就業・生活支援センター 他）
 館内エレベーター点検
 6日 淀川区自立支援協議会・研修委員会（佐々木祐）
 エアロビクス（生活介護）
 7日 施設見学（2名：NPO 法人ふらっとめいじ 他）
 2階・4階厨房内の害虫駆除（ダスキン）
 8日 就労支援会議
 9日 よど運営会議 生活介護会議 十三地区管理職会議（松上、佐々木祐）
 施設見学（1名：泉大津市教育委員会）
 12日 支援員会議
 15日 淀川区自立支援協議会・知的部会（佐々木祐、田端）
 16日 給食会議
 19日 支援員会議
 20日 エアロビクス（生活介護）
 22日 よど運営会議 生活介護会議
 23日 公用車（キャラバン）車検
 24日 土曜レクリエーション（箕面の滝）
 26日 施設見学会（9名：淀川地域就業支援センター 他）
 30日 施設見学（3名：相談事業所ネクスト 他）
 コロケ会議
 5月 6日 I-style（エクスクラメーション・スタイル）
 見学（松上・田端・篠永）
 7日 十三地区等管理職会議
 10日 支援員会議
 11日 エアロビクス（生活介護）、体験実習前の懇談会（思斉特別支援学校4名）
 12日 淀川区自立支援協議会・研修委員会（佐々木祐）

- 13日 淀川区自立支援協議会 知的部会（田端）
定例会（佐々木祐）
2階・4階厨房内の害虫駆除（ダスキン）
就労支援会議
14日 よど運営会議 生活介護会議
19日 施設見学会
（13名：近畿情報高等専修学校 他）
22日 土曜レクリエーション（ボーリング）
24日 支援員会議

- 25日 エアロビクス（生活介護）
26日 給食会議 消防用設備の定期点検（セコム）
27日 大阪府事業所集団指導（山本）
大阪市障害児・者施設連絡協議会総会（松上）
28日 よど運営会議 生活介護会議 外食（生活介護）
31日 思斉特別支援学校生徒の体験実習（2名）
（～6月4日）

（佐々木祐 記）

ぶれいす Be 掲示板

- 3月 2日 職員研修「口腔ケア」
4日 職員研修「口腔ケア」
8日 職員研修「気管切開をした人へのケア」
9日 ピア・サポート・ミーティング
（入職3年目までのスタッフ対象）
12日 カフェ経営ミーティング
15日 敷地内3施設代表者会議
18日 ボランティア千成会様によるお寿司の調理、
提供
26日 消防機器法定点検（年度内第2回）
30日 消防避難訓練（年度内第2回）
31日 建物12カ月点検と修理
マネジメント・ミーティング
4月 1日 短期入所事業再開
5日 消防特別查察

- 7日 ピア・サポート・ミーティング
（入職3年目までのスタッフ対象）
9日 カフェ経営ミーティング
15日 敷地内3施設代表者会議
17日 法人研修
24日 Cafe Be コンサート
5月 11日 ピア・サポート・ミーティング
（入職3年目までのスタッフ対象）
19日 カフェ経営ミーティング
マネージメント・ミーティング
22日 Be 家族会懇親会（事業進捗状況の説明）
土曜プログラム実施
24日 就労関連事業検討会
期間中の施設見学：9件

（水藤 記）

萩の杜家族会掲示板

- 3月 7日 定例会、新旧役員会、フリートーク。
定例会では、新型インフルエンザ対策、退職
職員の紹介等。
11日 イオン黄色レシートキャンペーン活動。
16日 ホットトーク、給食試食会。
21日 高槻クロスカントリー大会に模擬店の出店。(写
真は、模擬店での風景)
25日 サークル萩。
28日 カトリック教会での花販売活動。
4月 11日 イオン黄
色レシ
ートキャン
ペーン活
動。
14日 機関誌発
送協力。
19日 安全対策
委員会：
利用者入

高槻クロスカントリー大会にて



- 院時のつきそい費用について、保険の活用の
検討、後見人制度の勉強会の検討、看護師の
交代、ふれっとのスヌーズレンの利用、プールの
利用、畑仕事等。
22日 サークル萩。
25日 定期総会：議案を全件承認。その後、中村理
事長より年度方針の説明。
松上常務理事、ひむろ家族会・豊澤会長、ぶ
れいす Be・本城会長、斎藤副会長、和田会
計担当から御挨拶。下施設長より平成22年
度の萩の杜事業計画の説明。ひむろ・平野施
設長より授産工賃の改定の説明（本件につ
いては検討・調整することとした）。
カトリック教会での花販売活動。
5月 11日 イオン黄色レシートキャンペーン活動。
23日 定例会、フリートーク。
カトリック教会での花販売活動。
27日 サークル萩。

（大橋 記）

ジョブサイトひむろ家族会掲示板

- 3月 6日 「ぶれいす Be」家族発会式 豊澤会長出席
3月 9日 家族会役員会
新旧役員出席
議題
役員改選について
法人への貸付金返済について
家族会会費未払い者への対応について
入所時寄付金について

- 連絡網整備について
父親会について
ケアホーム入所希望者の会発足について
成年後見人制度の研究会発足について
ぶれいす Be 家族会立ち上げについて
総会について
3月 17日 がんこ会 豊澤会長出席
3月 24日 家族会役員会

作業
 総会資料作成・発送
 議題
 役員役割分担について
 3月26日 家族会役員交代懇親会
 3月28日 北摂杉の子会評議員会 豊澤会長出席
 新旧役員出席
 4月7日 家族会総会
 法人より沖本副理事長 ジョブサイトひむろ
 より平野施設長
 ぷれいす Be 家族会 本城会長 ジョブサイ
 トよど家族会 福田会長 出席

5月17日 家族会役員会
 議題
 家族会会費未納者への対処について
 年間スケジュールについて
 新連絡網完成
 バス代について
 5月19日 がんこ会 豊澤会長出席
 5月30日 萩の杜家族会総会 豊澤会長出席
 台風接近・解除に伴う連絡網

(豊澤 記)

ジョブサイトよど家族会掲示板

3月1日 オアシスサロンで100円喫茶実施。
 家族会役員会開催。100円喫茶実施。
 2日 大阪府発達障害者団体ネットワーク運営委員会
 会長、役員2名参加
 4日 自閉症療育センター will 保護者研修で、100
 円喫茶実施。
 5日 児童デイサービスセンター an 保護者研修で、
 100円喫茶実施。
 11日 自閉症療育センター will 保護者研修で、100
 円喫茶実施。
 12日 児童デイサービスセンター an 保護者研修で、
 100円喫茶実施。
 13日 十三市参加。
 15日 オアシス役員会で、100円喫茶実施。
 18日 自閉症療育センター will 保護者研修で、100
 円喫茶実施。
 29日 3月家族会定例会実施。会員25名。
 松上施設長。佐々木副施設長出席。100円喫
 茶実施。
 勉強会 アクトおおさかセンター長新澤伸子
 先生をお招きして「TEACCHの取り組みに
 ついて」講演して頂いた。
 31日 家族会役員会反省会。

4月5日 家族会役員会開催。100円喫茶実施。
 7日 ジョブサイトひむろ家族会総会に会長参加。
 12日 大阪府発達障害者団体ネットワーク運営委員会
 会長、役員2名参加
 13日 十三市参加。
 18日 オアシス役員会で100円喫茶実施。
 19日 オアシスサロンで100円喫茶実施。
 26日 家族会22年度総会開催。会員28名。
 中村理事長、松上施設長、佐々木副施設長出席。
 100円喫茶実施。
 がんこ十三本店で、懇親会開催。会員28名。
 中村理事長、松上施設長、佐々木副施設長出席。
 5月10日 家族会役員会開催。100円喫茶実施。
 13日 十三市参加。
 16日 オアシス総会で、100円喫茶実施。
 17日 オアシスサロンで100円喫茶実施。
 21日 大阪府発達障害者団体ネットワーク総会に会
 長、役員2名参加
 25日 オアシス役員会で100円喫茶実施。
 30日 北摂杉の子会理事評議員会に河端理事、会
 長出席。

(福田 記)

ぷれいす Be 家族会掲示板

3月6日 平成22年度 第1期設立総会
 出席者数22名 委任状提出数18名
 第1号議案 ぷれいす Be 家族会会則
 第2号議案 平成22年度役員及び会計監査、
 参与
 第3号議案 平成22年度事業基本計画
 第4号議案 平成22年度 予算計画
 以上第1号議案から第4号議案すべて、全会
 一致で承認受ける。
 尚、来賓として、萩の杜家族会植松芳哲会長、
 ジョブサイトひむろ家族会豊澤進会長にご出
 席いただいた。
 10日 役員会(4月1日より家族会スタートにむけ
 て、準備事項について…)
 全利用者のご家族にむけて、総会を経て、家
 族会が成立し、4月1日よりスタートする挨拶
 状を配布
 12日 「米国・日本のケア・ホーム先進事例～研究
 報告・公開討議～」聴講
 (本城・斎藤・西郷)

28日 北摂杉の子会評議員会 出席(本城)
 29日 役員会(4月1日より家族会スタートにむけ
 て、直前準備事項について)
 4月1日 家族会スタート ゆうちょ銀行にて口座開設
 7日 ジョブサイトひむろ家族会平成22年度定期
 総会を見学させていただく
 (本城・斎藤)
 15日 第1期第一回役員会
 ・上半期運営計画(再確認)
 ・5月22日親睦会について
 ・役員の役割分担について
 ・各種、経費処理について
 ・その他
 25日 萩の杜家族会平成22年度定期総会を見学さ
 せていただく(本城・斎藤・和田)
 5月13日 第1期第二回役員会
 ・5月22日親睦会について(出席状況、内容、
 準備物、役割分担等)
 ・会費納入状況について
 ・その他

- 20日 北摂杉の子会評議員会 出席（本城）
 22日 親睦会（茶話会形式で会員同士の親睦を主眼に・・・）
 1. 中村節史理事長にご出席いただき、北摂杉の子会全体について心強いお話をいただきました。
 2. 家族会からの報告

3. ぶれいす Be 水藤施設長より平成 22 年度「事業計画」発表
 4. グループ別懇親会
 5. 会長挨拶、まとめ
 親睦会で出された様々なご意見を、本年度の事業計画の中に反映いたします。
 （本城 記）

大阪自閉症支援センターを発展させる会オアシス掲示板

- 3月 1日 オアシス・サロン開催
 3月 2日 大阪府発達障がい団体ネットワーク運営委員会（前会長、副会長 出席）
 3月 4日・11日 will 保護者研修会にて前会長報告
 3月 8日 ホットメールなにわ会合（副会長 出席）
 3月 13日・14日 オアシス会員見就労体験実施（機関誌いるか通信の発送業務体験）
 3月中旬 大阪自閉症支援センター & オアシス機関紙『いるか通信 No.27』発行
 3月 15日 3月度役員会
 3月 28日 北摂杉の子会理事評議員会（相談役、前会長 出席）
 4月 12日 大阪府発達障がい団体ネットワーク運営委員会（前会長、副会長、役員 出席）
 4月 18日 4月度役員会
 4月 19日 オアシス・サロン開催
 5月 16日 22年度オアシス総会

- 5月 17日 オアシス・サロン開催
 5月 21日 大阪府発達障がい団体ネットワーク会・総会（相談役、前会長、会長、副会長出席）
 5月 21日 5月度役員会、全委員会
 5月 30日 北摂杉の子会理事評議員会（相談役 出席）
 （芝 記）

5月16日(日) 平成22年度オアシス総会を開催いたしました。会長任期満了に伴い新会長を選出、承認されました。新会長：前野 君悦(まへのきみえ)
 総会には、法人から中村理事長、松上常務理事のご臨席を賜りました。
 この場をおかりしまして皆様からのご指導、ご支援に厚く御礼を申し上げます。



北摂杉の子会後援会掲示板

<近況報告>

- 3月 個人会員：560名、団体会員：18団体
 合計：578名／団体 寄付：7件
 4月 個人会員：502名、団体会員：13団体
 合計：515名／団体 寄付：16件
 5月 個人会員：523名、団体会員：13団体
 合計：536名／団体 寄付：4件

<法人：後援会への会員様からの声>

- 不安定な社会状況の中、存在感のある活動をひきつづき期待しています。皆様のご健康を祈りつつ！
 （高槻市、M.K.様）
- いつもお世話になっております。会誌をお送りいただき勉強させていただいております。今後ともどうぞよろしく願いいたします
 （豊中市、T.S.様）
- ますますのご発展を祈ります
 （高槻市、T.N.様）

<行事>

- 第10回（2010年度）定例役員会を開催しました（議事録抜粋）
 （期日）2010年6月1日
 （参加者）役員（8名）、相談役（7名）、監査役（1名）全員

1. 2009年度の活動

- 1) 会員数
 個人会員：560名、団体会員：18団体、合計：578名／団体
 2) 後援会費及び寄付

後援会費：138万円、寄付：67万円、合計：206万円

3) 経緯

- 法人への寄付
 2009年6月に190万円（ジョブサイトよどのコロッケ販売のための店舗改装費用の一部）及び2009年8月に30万円（法人の資金）、合計220万円
 ・セキスイハイム住宅紹介制度は実績なし
 ・法人各事業所にポスター、依頼ボックスの設置；未実施

2. 2009年度の収支と会計監査報告

- 1) 収入
 前期繰越金：1,914,678円、寄付金：671,510円、後援会費：1,384,000円、受取利息：915円、収入合計：3,971,103円（今年度の収入：2,056,425円）
 2) 支出
 事務費：1,100円、通信費：8,200円、雑費：15,020円、法人への寄付：2,200,000円、支出合計：2,224,320円
 3) 次期繰越金
 1,746,783円（2010年3月31日現在）

上記について会計から報告され、監査役が適正に運用されていることを確認した

3. 2010年度の活動計画

- 1) 法人への寄付
 170万円を寄付する（2010年6月に実施済み）。その用途について中村理事長から説明があり、異議なし

く了承された（100万円：ジョブサイトひむろの老朽化したクリーニング設備の更新、70万円：法人10周年記念事業の一環として法人紹介ビデオの全体編を作製したが、各事業所の個別紹介もビデオ作製して完成させたい）

2) 後援会員の整理と資金計画

• 退会希望者などがあったため、個人及び団体会員の整理を行った

今年度開始時の会員数は、個人会員：482、団体会員：12、合計：494名／団体

• 資金計画→後援会費、寄付、その他で約185万円の収入を目標にする

3) 住宅紹介制度（セキスイハイム）

今年度も継続する（住宅を建てる際にこの制度を利用すると、成約者：建物本体価格の3%割引、後援会に50万円、紹介者に10万円が支払われます：連絡先は後援会事務局）

<その他のご報告>

1. 人事関係

• 次の3名の方々が2009年度をもって後援会役員を退任されました

幹事：藤澤一雄氏、幹事：永田啓子氏、

会計：矢橋美智子氏

• 次の5名の方々が2010年度の後援会役員として就任されました

幹事：植松芳哲氏、豊澤 進氏、福田啓子氏、

本城征治郎氏、会計：古門 薫氏

• 次の2名の方々が後援会の顧問に就任されました
田川元康氏（前法人理事）、柏木道子氏（前法人理事）

これらの異動により2010年度以降の後援会役員は、次のようになります

会 長：小倉襄二

幹 事：植松芳哲、小林夏子、豊澤 進、福田啓子、
本城 征治郎、松岡洋市

会 計：古門 薫

事務局：棚山薫晴、安原邦高

（以上、役員）

監 査：柏原紀男

相談役：今村一二三、中村節史、沖本卓郎、

松上利男、本田英世

2. 後援会発足後10年間の資金の動き

今の後援会は2000年12月に発足しました。発足後は後援会の活動に対し多くの皆様のご理解、ご協力をいただき、2010年3月末までに後援会費1,253万円、寄付金770万円、合計2,023万円の浄財を頂戴いたしました。

この資金は法人の運営資金（800万円）、法人発足10周年記念事業（290万円）、萩の杜の施設修繕費（100万円）、空調の修繕費（230万円）、ジョブサイトひむろの運転資金（300万円）、クリーニング設備の更新費用（100万円）、ジョブサイトよどの開所、運転資金（250万円）、「よどのコロッケ」販売用店舗の改修費用（190万円）として有効に使われています。紙面をお借りして支援していただいた皆様に心よりお礼を申し上げます。

（棚山 記）



□法人へのご寄付に感謝いたします。(2010年3月6日～2010年5月31日)

河端良一 川浪スエ子 福田啓子 干場光一 清水和代 佐藤清次 加地隆一 藤村光規 久保いずみ 株式会社日本スタッフセンター 松村祐一 中村節史 自閉症の人のバリアフリーを考える親の会はぐくみ

□後援会入会と会費納入に感謝いたします。(2010年2月15日～2010年5月27日)

西田源太郎 西田良野 西田誠士 西田弘子 西田勝士 辻本秀子 富田カズミ 濱田誠治 橋本紀子 前田浩子 下川都志子 紙 和子 木村恵美子 野口良三 野口里子 稲田聖子 平井雅子 山里文男 吉川輝夫 吉川弘子 吉川敦子 榎本滋子 蛭 豊 渡辺洋子 小林善浩 堀川浩二 新川 彰 米田たか 福原龍彦 福原温子 嶋田輝美 早原君子 向井満子 真鍋宣子 平尾欣子 藤田晴美 中村忠雄 篤田晴子 宮崎慶子 中村 潤 中村四葉 長良恭行 中村義昭 長谷川ひろみ 田中由紀子 中村悦子 中村節史 中村豪史 門口映子 伯野祥子 菅 恒子 和泉和子 福井 務 村山宣明 西坂徹雄 本田千秋 平瀬武明 田口道代 高原和子 関 正弘 関 喜子 木下信男 木下光代 尾木 豊 吉田勢蔵 新聞健治 平野千鶴子 中西 弘 笹井八郎 大久保尚武 新谷 敦 石田泰二 佐々木公一 藤下 樹 八里さだ 榎本貴夫 鈴木都美 小林伸次 小林真理子 久保 茂 有田和弘 株式会社東テスティブル 内田幸子 下村孝子 具志堅 進 具志堅郁子 川田紀久夫 田子森幸子 野口健司 今井広文 今中貴子 上里浩子 沢田幸子 沢田良造 久常進浩 井桁友紀枝 井上誠子 恒本寿也 今村一二三 今村圭子 今村誠吾 今村聡也 今村暢也 池下貞子 野口みち子 山尾 崇 山尾壮志 山尾郁保 山尾朝子 北爪隆子 鹿子木 勉 平林征男 澤田博美 棚山薫晴 黒澤桂子 森谷薫美 森谷弘雅 森谷奈津美 棚山 妙 棚山勝行 梅本順子 木谷政之 梶井英二 新田利秀 井田 進 中西邦夫 遠藤仁子 寺村有里子 永田啓子 永田健二 永田泰士 遠藤一太 加藤 浩 佐藤敏子 佐藤由美 佐藤和男 秋永 隆 秋永香織 松本範雄 登間佐加津枝 東 敬司 藤澤一雄 藤澤千恵子 田代 満 原 節子 丸澤容子 吉谷登美子 桂 都丸 三木春子 山口 勉 池田 寛 藤本信子 南タミ子 福本 宏 豊澤 進 伊東洋一 笥下紘平 木下 潤 笥下麻衣子 本城征治郎 本城 翼 本城三四子 森 泰雄 金谷 健 金谷千鶴子 増淵紘子 村上信子 入江誠司 北爪紀子 北爪敏雄 廣瀬健三 富田かずみ 西原圭一 西原香織 西原尚史 西原清二 西原律子 高橋協 高槻さつき会 小寺雅子 高宮郁子 森田 傑 真野利之 株式会社キンキ寝具 自閉症の人のバリアフリーを考える親の会 はぐくみ 井筒浩美

□後援会へのご寄付に感謝いたします。(2010年2月26日～2010年5月30日)

北村憲一 木村恵美子 新川 淳 棚山薫晴 久保いずみ 志賀賀之 門口映子 伯野祥子 ボランティアグループかたつむり 匿名様 近藤 勝 大久保尚武 山田千明 佐々木公一 匿名様 梶井英二 平林征男 匿名様

□家族会へのご寄付に感謝いたします。(2010年3月1日～2010年5月31日)

植松 本田 サンクス高槻富田町店

□物品のご提供に感謝いたします。(2010年3月1日～2010年5月31日)

長井美代子 赤尾浩子 南野 不二園芸 米奥 仲出 鶴谷久子 高相陽子 黒瀬美和子 吉田みほ子 梶原明子 小川敏夫 田中弘子 川西地区民生委員児童委員協議会

□ボランティアに感謝いたします。(2010年3月1日～2010年5月31日)

坂井恵美子 佐々木 前田龍秀 井上博代 中村亜紀子 千成会 西本 愛

(敬称略 順不同)

寄付と後援会入会のお願い

社会福祉法人「北摂杉の子会」後援会の趣旨に賛同され、ご支援して下さる方々の寄付及び後援会への入会をお願い申し上げます。寄付金と後援会費は法人を支援するための資金とさせていただきます。お振込は右記口座まで、もしくは、同封の振込用紙をご利用下さい。皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

記

1. 寄付金
2. 個人会員 年間一口 2,000円
3. 団体会員 年間一口 10,000円

郵便振込口座北摂杉の子会 00920-8-90859

□ 社会福祉法人北摂杉の子会法人本部事務所
〒569-0071 高槻市城北町1丁目6-6 奥野ビル402
TEL (072) 662-8133 FAX (072) 662-8155
[E-Mail] info@suginokokai.com
[URL] http://www.suginokokai.com

□ 知的障害者生活施設萩の杜
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1
TEL (072) 699-0099 FAX (072) 699-0130
[E-Mail] haginomori@suginokokai.com

□ 萩の杜ショートステイセンターぶれす
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1
TEL (072) 699-0844 FAX (072) 699-0130
[E-Mail] breath@suginokokai.com

□ ケアホームとんだ
〒569-0814 高槻市富田町5-13-14101号室

□ ケアホームみやた
〒569-1142 高槻市宮田町3-4-1105号室

□ ジョブサイトひむろ(就労移行支援・生活介護事業)
〒569-1141 高槻市氷室町1丁目14-27
TEL & FAX (072) 697-2234
[E-Mail] himuro@suginokokai.com

□ 高槻地域生活総合支援センターぶれいす Be
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072) 681-4700 FAX (072) 681-4900
[E-Mail] placebe@suginokokai.com

■ 生活支援センターあんだんて
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072) 681-4755 FAX (072) 681-4900
[E-Mail] andante@suginokokai.com

□ 高槻障害者地域移行支援センターだ・かーぼ
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072) 681-4755 FAX (072) 681-4900
[E-Mail] da-capo@suginokokai.com

■ 大阪府発達障がい者支援センターアクトおおさか
〒532-0023 大阪市淀川区十三東3丁目18-12 イトウビル1F
TEL (06) 6100-3003 FAX (06) 6100-3004
[E-Mail] act-osaka@suginokokai.com

□ 自閉症療育センターwill
〒569-0077 高槻市野見町3-14第2高谷ビル2F
TEL (072) 662-0100 FAX (072) 662-0056
[E-Mail] will@suginokokai.com

□ 自閉症療育センターLink
〒573-0032 枚方市岡東町24-10 アイエス枚方ビル3階
TEL (072) 841-2411 FAX (072) 841-2412
[E-Mail] link@suginokokai.com

□ ジョブサイトよど(就労移行支援・生活介護事業)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号
TEL (06) 6838-7007 FAX (06) 6838-7015
[E-Mail] yodo@suginokokai.com

□ 大阪自閉症支援センター
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号
TEL (06) 6838-8990 FAX (06) 6838-7015
[E-Mail] o-center@suginokokai.com
[URL] http://oasc.jp

□ 児童デイサービスセンターan
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号
TEL (06) 6838-8990 FAX (06) 6838-7015
[E-Mail] an@suginokokai.com [URL] http://oasc.jp

※■は行政よりの委託事業

発行人 社会福祉法人北摂杉の子会 理事長 中村節史 発行所 北摂杉の子会 住所 大阪府高槻市大字萩谷14番地1
発行日 2010年7月10日 定価 100円